

# 雪崩発生 の 概念



日本は国土の約6割が豪雪地帯で、また世界有数の多雪国であるため、雪による災害も多く発生しています。

道路への雪崩は、安全な走行の障害となるばかりでなく、ときには、道路利用者の人命にもかかわる被害をもたらすことがあります。

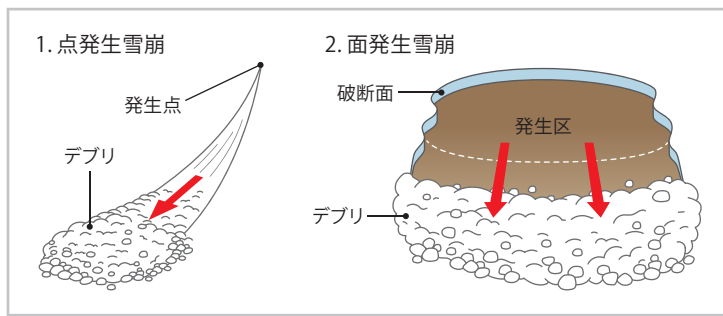
雪崩は、その発生要因や発生形態、運動形態などの分類要素により、いくつかに分類できます。

### 表層雪崩

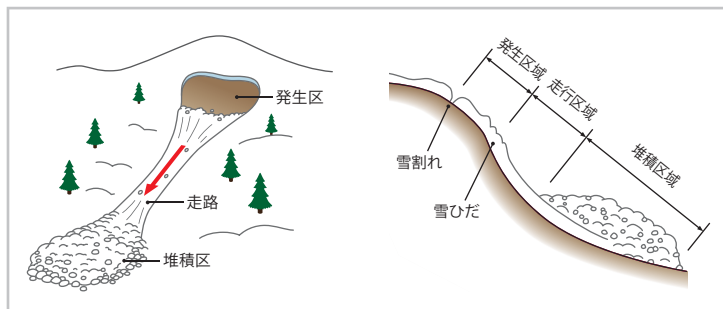
表層雪崩のスピード  
(時速100~200km)

### 全層雪崩

全層雪崩のスピード  
(時速40~80km)



点発生雪崩と面発生雪崩



雪崩跡地の区分

全層雪崩：積雪のすべてが崩れた場合

表層雪崩：積雪の表面の一部が崩れた場合

雪崩の名称分類（1964年日本雪氷学会）

		雪崩発生の形		
		点発生	面発生	
雪崩層の雪質	乾雪	①点発生 乾雪表層雪崩	②面発生 乾雪表層雪崩	③面発生 乾雪全層雪崩
	湿雪	④点発生 湿雪表層雪崩	⑤面発生 湿雪表層雪崩	⑥面発生 湿雪全層雪崩
		表層		全層
		すべり面の位置		

また、雪崩の運動形態から次の形式の分類方法もある。

煙り型：雪崩運動の外見が雪煙状で雪煙の高さが50mあまりに達するものがある。空気の流れを伴っている。気温の低いとき、降雪中か降雪直後に起こる。雪崩の速度が速い。

流れ型：外見が水流状で雪表面に沿って硫化する。気温が0℃以上に上昇した際に起こる湿雪雪崩はこの型の代表的な1つである。雪崩の速度は一般に煙り型に比較して低い。

出典：雪崩対応安全ガイドブック（全国地すべりがけ崩れ対策協議会）